



会 報 と や ま

令和元年度 No. 3 (通算155号) 総会員数895名 (休会90名) 全190施設

第35回 東海北陸理学療法学術大会

未来を見据えた理学療法 ～健康と福祉のために～



一般社団法人
富山県理学療法士会

会長 酒井 吉仁

明けましておめでとうございます

新たな時代「令和」二年を迎え、我々を取り巻く環境も大きく変わろうとしています。超高齢社会において病院、施設での臨床業務だけでなく、市町村での高齢者等の自立、重度化防止に向けた地域リハビリテーション支援体制での支援要請の声が大きくなっています。

また、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機にこれまでに障がい者スポーツへの支援、身体に障害のない者の健康づくり、スポーツ障害予防など、社会のヘルスニードの高まりに併せて、ますます地域における理学療法士へのニーズは高まっていく事でしょう。

このような社会からの理学療法(士)のニーズに応えるため、我々は、その業務が適正に運用されるように規律と医療の普及および向上に寄与しなければなりません。理学療法士の業務は医師法、保険看法、そして理学療法士及び作業療法士法により規定されており、資格保有者には法的責任が問われます。また、その業務の施行には、知識や技術だけでなく倫理観(モラル)、理学療法士としての品性が問われます。我々は、患者および対象者には公平に接し、且つその権利を尊重しつつ理性ある判断の上、責任をもって理学療法行為を行わねばなりません。

富山県理学療法士会は、新たな時代にふさわしい理学療法士の職能団体として、「人とともに歩き、人とともに成長し、社会に貢献する」ことを基本理念とし、県民の皆様の医療、福祉、保健に寄与できるように努めてまいります。

引き続き当会の活動につきまして皆様のお力添えをいただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

第35回東海北陸理学療法学術大会 大会長報告とお礼

第35回東海北陸理学療法学術大会 大会長 仲川 仁

皆さま、こんにちは。第35回東海北陸理学療法学術大会の大会長の仲川です。令和元年11月9日(土)、10日(日)に行われました学術大会では、富山県士会の多くの会員の皆さまから参加者、演題発表者、運営スタッフ、準備委員の多大なるご協力をいただき、成功裏に終わることができました。この場をお借りして、感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。



総合受付にて

当日は、2日間で1,356名の参加者がありました。16の教育セミナーと202の演題発表があり、活発なディスカッションがありました。2つの県内講師によるランチョンセミナーもあり、満席で盛況でした。また、特別企画の県民公開講座では、講師に野球評論家の桑田真澄氏を迎え、「夢をあきらめない」と題し、講演をして頂き、800名を超える県民に聴講して頂きました。会員も直接会場に入ることができ、貴重な話を聞くことができました。

私たち準備委員会は、200演題の応募を目標に掲げ、2年以上も前から準備を始めてまいりました。その中で、第33回東海北陸理学療法学術大会福井大会・第34回東海北陸理学療法学術大会三重大会の視察は、大変貴重なものでした。視察を踏まえ、1か月に1度の準備委員会会議開催、各部局での部局会議開催、メーリングリストでの毎日20通を超えるメールチェック・意見交換を行いました。

演題申込み〆切の延長、査読、発表者との連絡をシステム会社との調整に奔走してもらった舟坂浩史学術局長。きめ細やかな運営マニュアルの作成・運営スタッフの調整してくれた池田裕哉運営局長。県民公開講座では、協賛の北日本新聞社との交渉・調整して頂いた酒井吉仁副大会長を中心とした準備委員。そして何よりも、本大会の大成功をコーディネートしてくれた石黒幸治準備委員長と、いくつもの難題を処理してくれた宮原謙一郎事務局長の両輪には、言葉では伝えきれませんが、深く感謝を申し上げます。本大会を通して、準備委員会・運営スタッフ、そして富山県士会の底力と成長を感じました。

大きな事業を通して、組織の結束を強めることが出来たことは、とても貴重な財産となりました。これからも、富山県士会は大きな事業、壁に向かわなければいけません。その時も、皆さんの力が必要になります。よろしく願いいたします。

最後の数行は、富山県士会理事としてのお願いです。



講演の様子

理 事 会 報 告

令和元年度 第4回 理 事 会 報 告

日 時：令和元年10月26日（土）

場 所：ボルファートとやま

出席者

理事：酒井 堀尾 滝田 仲川 池田
石黒 中島 布上 秋元 永山
城前 山口 沼田 水上 梅野
中村（拓） 魚谷 織田 石田
中村（太） 柴田（孝） 宮原

監事：寺田 森田

事務局：福田（書記）

【審議事項】

1. 令和元年度4半期事業報告

1) 事業報告

- ・審議し異議なし。
- ・教育局：協会の研修ポイント不認定について申請規定90分×2コマ（180分）に満たないため不認定となった研修会がある。協会規定に則って研修ポイントを申請するように。
新人教育プログラム修了者の県内研修会参加率が少ないため研修会内容の検討が必要。研修会テーマが他研究会と被らないよう調整が必要。
- ・理学療法啓発部：来年度から広報事業部と統合
- ・災害支援対策委員会：災害時対応フローチャートを作成。今後訓練を予定。

2) 予算執行状況

2. 補正予算について

1) 令和元年度臨床実習指導者講習会：

学校主催で行う研修会だが、富山県では県士会主催で行う。ただし、会場

費は富山医療福祉専門学校が負担することとする。

3. 県士会重点課題について

- 1) リハビリテーション専門職による支援体制強化の推進
- 2) 災害支援に関わる医療従事者の質の向上と連携の推進について
- 3) 県内医療体制の充実に向けてリハビリテーション専門職の確保、適正な配置支援
- 4) リハビリテーション専門職の質の向上について

4. その他

1) 講師依頼について

- ・研修会講師費用が規定を上回る講師を依頼したいときは理事会承認をもらう。予算が高くなる場合には、会費を高くするなど補填も考慮する。
- ・公益社団法人であるため、研修会講師は理学療法士協会員や後援団体の会員、公的機関関係者等が妥当。一般企業や利害関係への影響が考慮される方に講師依頼を検討する場合、講師として妥当なのか再考する必要がある。判断に苦慮する場合は事務局長や理事に相談をして検討する。

2) 教育局より研修会案内

来年度からFAXでの案内は中止、すぐメールで行う。FAXと同様に各局レベルで配信可能にする。すぐメールの管理について教育局研修管理部にて行う。

3) 会員名簿について

県士会ホームページに掲載するのは個人情報保護法の観点から妥当か否か協会に問い合わせする。

【報告事項】

1. 第35回東海北陸理学療法学術大会準備進捗状況
2. 令和2年度富山県理学療法学術大会準備進捗状況
 - ・テーマが「地域におけるPTの専門性と可能性」に決定した。
3. 50周年事業準備進捗状況
 - ・祝賀会、記念式典を予定している。
4. 令和2年度事業計画・予算案について
 - 1) 令和元年12月9日締切、14日理事会報告・審議
 - 2) 令和2年1月11日の拡大役員会で報告
5. 代議員選挙、理事選挙について
 - ・次回理事会で立候補を募る。
6. 介護予防事業について
 - ・富山市、高岡市と情報交換会を実施、事業化に向けて継続的に働きかけを行っていく。
7. ボランティア保険について再検討する
8. 令和元年12月7日開催予定の北陸3県代表者会について

行事報告

「いきいきとやま・第32回健康と長寿の祭典」に参加して

広報事業部 部長 山村 翔太

令和元年10月9日（水）、10日（木）に富山県民会館にて、「いきいきとやま・第32回健康と長寿の祭典」が開催されました。今年の祭典は、テーマを「新時代 笑顔で元気 健康とやま」と題し、高齢者の生きがいづくりや社会参加への関心を高めるとともに、健康と長寿について共に考え、話し合い、「元気とやまの健康づくり」と「いきいきとした長寿社会」の実現を目指して開催されました。

例年は富山県理学療法士会単独でブース出展していましたが、今年は昨年開催されたねりんピックと同様に富山県作業療法士会、富山県言語聴覚士会と合同でブース出展し、職種ごとに様々なコーナーを設けました。

当士会では、身体機能測定（握力測定、片脚立位測定）や体操指導を行うとともに、日本理学療法士協会が発行している広報物の配布を行い、理学療法や理学療法士についての広報活動も行いました。

身体機能測定では握力や片脚立位時間を測定し、実際の測定値と各年代の平均値を比較して日常生活における注意点などの生活指導を行いました。握力測定は日常生活

で測定する機会が少ないためか、多くの来場者の方が興味を持ち測定されていました。測定された方に対して必要に応じて「とやまシルバーリハビリ体操」など自宅で実施可能な体操の指導を行い、来場者の方に実際に体操を行っていただくことで、「とやまシルバーリハビリ体操」



10月9日当日参加スタッフ

の周知を図るとともに、体操を実施する際の注意点などの指導も行いました。

例年は、来場者数が少なく広報活動に難渋していましたが、今年は3士会合同での出展が功を奏したのか、2日間合計で200名以上の来場者があり、県内の多くの方々に対して広報活動を行う非常に良い機会となりました。



片脚立位測定時間の様子

また、作業療法士会や言語聴覚士会の広報活動を間近で目にし、わかりやすいパネルや展示を使用して各職種の業務内容を紹介したりするなど、広報活動に関して様々な工夫がなされていることを知ることができました。

理学療法士に対する職業認知は、参加者の反応を見ると徐々に高まっていると感じます。今後も引き続き、理学療法や理学療法士を広く一般の方に知っていただけるよう、有効な啓蒙活動を検討したいと思います。

最後になりましたが、今後とも士会員皆様のご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

「富山マラソン2019派遣事業」活動報告

富山マラソンメディカルサポート部 部長 二橋 亮介

令和元年10月27日（日）に「富山マラソン2019」が開催され、36名の理学療法士が13か所の救護所に分かれてサポート活動を行いました。富山県理学療法士会では平成27年の第1回大会から、富山県より依頼を受けてランナーのサポートをしています。

主なサポート内容は、筋肉や関節の痛みを主訴としたランナーにテーピングやストレッチ、アイシングを行うことですが、今年は天候が雨となり気温も低かったことから、寒さ（低体温）や体調不良を主訴としたランナーも多く救護所に来所されました。そのため上記の対応に限らず、身体の保温や給水、搬送の手伝いなど、一医療者として必要な行動を求められた大会となりました。

救護所には理学療法士のほか医師、看護師、看護学生、行政職員が配置され、医師の診察のもとランナーへの処置が実施されますが、レースの復帰へ向けた対応の中心は理学療法士が担っています。また大会を重ねるごとに理学療法士に対する認知度も高まっており、他職種やランナーの方々からも期待の声が増えてきたことを実感しています。

富山マラソンにおける富山県理学療法士会へのサポート依頼は今後も続く予定であり、本事業はベテラン、新人問わず即戦力として活躍、経験できることが特徴です。また、スポーツ支援事業局では先生方が参加しやすいよう事前の説明会や勉強会も開催していますので、是非参加してみてください。



サポートの様子

最後に、富山マラソンは毎年13000人ものランナーが出場する県を挙げた一大イベントであり、本事業には多くのマンパワーが必要となります。今大会においても、東海北陸理学療法学会大会の準備などで忙しい中、多くの先生方のご協力を得ることができました。ご協力してくださった先生方、送り出してくださった職場の方々には、この場を借りて感謝申し上げます。

また今後もより良いサポート活動ができるよう検討していきますので、皆様のご理解とご協力の程、宜しくお願い致します。



参加スタッフ

地区連絡会だより

高岡地区

高岡地区連絡会研修会（若高会）を終えて

高岡地区連絡会 若高会代表 岡部 省吾

令和元年度第1回若高会研修会は、令和元年10月16日(水)に厚生連高岡病院リハビリテーションセンターにて、「リハビリテーションと栄養」という大きなテーマのもと実施しました。厚生連高岡病院リハビリテーション科のPTの志村先生、STの毛利先生に講義をしていただきました。お二人とも大変わかりやすくお話していただき勉強になりました。今後の臨床にもいかしていきたいです。

PTの志村先生からは早期リハビリテーションにおける重要点や栄養面でのリスク管理についてご講義いただきました。リハビリテーションの対象となるのは高齢者が多くなっている中、早期離床による認知機能低下やせん妄・不穩の予防の重要性や適切な栄養管理と合わせた適切なリハビリテーションの重要性を学ぶことができました。私も日頃の臨床で、どれもとても大事であるとわかっていながらも、これらを実際に遂行し、注意していくことはとても難しいと感じております。

STの毛利先生からは、嚥下における基本的な所から専門的なところまで、模型も利用しながらご講義いただきました。最後にはPTに求める



研修会の様子

ことまで話していただき、大変参考になりました。先生からの言葉の1つに「患者さんに大きな変化がなくても決して嫌にならないでください」とありました。かなり深い言葉に感じ、心に残る一言でした。

臨床でも悩むことは多いですが、自分のやっていることは決して無駄ではないと自信をもって取り組んでいきたいと感じました。

富山南部地区

第2回富山南部地区連絡会

西能みなみ病院 水上 涼介

令和元年9月13日（金）、富山駅前の「ハナウタ酒場JAMMIN」にて今年度2回目の連絡会（懇親会）を開催しました。業務のお忙しい中、8施設から14名の先生方が参加され、美味しい料理とお酒をいただきながら交流を深めました。

普段はなかなか関わることが出来ず、初対面の先生方もおられましたが、沢山の交流ができ、時間を忘れてしまうほど盛り上がりました。

新人理学療法士も連絡会に積極的に参加していただき、様々な情報交換ができ、大変有意義な時間となりました。連絡会への参加人数も増えてきており、地区内の連携強化が図れていると再認識することができました。



懇親会参加の皆様

今後もこのような交流を続けて、同地区の理学療法士同士の連携や交流を深めていき、県士会全体を盛り上げていきたいと思います。



研 修 会 報 告



スポーツ支援事業従事者 養成講習会

富山西総合病院 野上 静恵

令和元年8月31日(土)に、富山県リハビリテーション病院・こども支援センターにておいて、スポーツ支援事業従事者養成講習会を開催しました。この研修会は県士会員の皆様に県士会が行っているスポーツ支援活動で活躍していただくことを目的としており、実際の活動内容の紹介やスポーツ傷害に関する知識について講演を行いました。

済生会富山病院の瀬島 知治 先生より高校野球サポートについて、富山県立中央病院の渡邊逸平 先生より高校バレーサポートについて、厚生連高岡病院の二橋 亮介 先生より富山マラソンサポートについて、それぞれの取り組みについて教えていただきました。また、野球に関しては投球障害の特徴、バレーに関しては足関節や膝関節のテーピング、マラソンに関してはアイシング、応急処置などのリスク管理などスポーツ現場で必要とされる知識に関する内容もありました。参加者からも「具体的な活動が聞けてよかった」「前職場の他県ではなかった取り組みなのでとてもいい機会だと思った」「スポーツに興味があるので大変勉強になった」と好評でした。ご多忙の中、今回の研修にご参加いただいた皆様、そしていつもスポーツ支援活動にご協力いただいている県士会員の皆様には心より感謝致します。スポーツ支援事業局では、今後もスポーツを通じた地域での社会貢献を推進していきたいと考えています。各競技のサポート部は、より充実したスポーツ支援が実現できるように試行錯誤しながら取り組んでいます。

多くの皆様のご協力が必要となりますので、今後もよろしくお願い致します。



実 技 の 様 子



第72回 秋季富山県高等学校野球大会サポートに参加して

にしの老人保健施設 杉村 立太郎

令和元年9月7日(土)に開催された、秋季富山県高等学校野球大会のサポートに参加しました。私は老人保健施設に勤めながら、スポーツ支援事業に参加しています。初めは老人保健施設で勤めているのにスポーツ支援に参加してもいいのか、自らの葛藤がありました。一度でも経験してみたい気持ちが強く、参加することとしました。

私は普段ご高齢者を対象にしており、高校生との関りは全くありませんでした。どのように接すれば良いかわかりませんでしたが、理学療法士の先輩方が丁寧に指導して下さい、とても安心しました。

現在、富山県ではスポーツ支援する理学療法士は少なく、幅広くスポーツ支援をしようにもできない状況です。一人でも多くの理学療法士がスポーツ分野で関わっていくことで障害予防や健康支援ができればと考えています。そのために職域や能力、経験は関係なく、少しでも興味がある方が参加していく必要があると感じました。



高校バレーボール秋季大会 サポート報告

富山県立中央病院 渡辺 逸平

バレーボールサポート部では令和元年9月7日(土)、8日(日)、11月4日(月)の3日間(11月23日に決勝戦を予定)、富山県高校バレーボール秋季大会(兼 全日本高校バレーボール選手権予選)が県内延べ5会場で行われ、テーピングサポートを行いました。

派遣者7名、見学者2名の先生にご参加いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。秋季大会では16名の選手の利用がありましたが、やはりアップ前にテーピングを希望する選手が多いため、朝の早い時間に集中します。今後も1会場2名の派遣者を確保したいと考えております。引き続きご協力よろしくお願い致します。

さて、今大会からはサポート室の入り口に100円ショップのホワイトボードを設置し、スタッフ名を明記することにしました。「名前も知らない謎の人にテーピングを巻かれるより安心感があるのでは？」という部員の意見から導入してみました。私個人は居酒屋のオススメが手書きのボードで書いてあることに安心感がある人間なので、良い試みだと思っています。このまま続けてい



テーピングの様子

きたいと思います。

最後に富山県理学療法士会の皆様にお伝えしたいことがあります。スポーツに携わりたい先生方、バレーボールサポート部としてはテーピングの練習だけでも大歓迎です。

最終的にバレーボールという競技に関わらなくても、テーピングの練習はすべての競技に生きると思います。

我々、バレーボールサポート部を踏み台にしていただきたいと思います。その結果テーピング普及の一助となれば本望です。是非見学、練習だけでも、お待ちしております。



富山マラソン 2019 テーピング研修会に参加して

厚生連高岡病院 伊藤 健太

令和元年10月15日(火)に、富山マラソンメディカルサポート部主催のテーピング研修会を開催し、富山西リハビリテーション病院の中島 知子先生、富山西総合病院の野上 静恵先生にご教授いただきました。内容は、富山マラソンサポートに向けた、マラソン現場での選手の対応の仕方や、膝関節、足関節のテーピングでした。スポーツ現場での選手の対応の仕方では、肉離れや筋痙攣、熱中症など、さまざまな状況での対応の仕方を、実例を交えわかりやすく教えていただきました。

膝関節、足関節のテーピングではテーピングの意義や目的、注意点など実技を交えてご指導いただき大変貴重な研修会となりました。またテーピングではさまざまな症例を提示していただき、症例の訴えや、症状からどのような病態にあるのかを参加者でディスカッションし、その症例にあったテーピングを選択し参加者どうして実際にテーピングを巻く練習を行いました。



実 技 の 様 子

実技練習参加者はテーピングを巻いたことのない参加者が多くいましたが、少数のグループごとに、富山マラソンメディカルサポート部員がアドバイスを行い、はじめての参加者でもわかりやすい実技になったと感じました。はじめての参加者からも「わかりやすく、楽しかった」「スポーツ現場への興味がより一層増した」との声が聞かれました。

富山マラソンメディカルサポート部では、来年度も富山マラソンのサポートを予定しています。スポーツ現場に関わったことのない人でも、今回の様な研修会を企画しており、初めてでも参加しやすいと思います。

スポーツに興味のある方は、是非富山マラソンのサポートへの参加を検討してみてください。



生涯学習部主催「標準理学療法研修会 2」に参加して

野村病院 富田 秀樹

令和元年9月1日(日)、サンシップとやまで行われた「標準理学療法研修会 2」に参加しました。今回の研修内容は、脳血管障害・運動器疾患・循環器疾患・生活環境支援の標準理学療法について、それぞれ認定・専門理学療法士の方々が講演してくださいました。

脳血管障害の講演では、富山西リハビリテーション病院の上村 悠月先生に、ガイドラインの活用方法や早期離床の重要性、歩行練習の進め方などを教えていただきました。患者様の能力を引き出せるよう今後の臨床に活かしていきたいと思います。

運動器疾患の講演では、富山西総合病院の野上 静恵先生に、骨折など外傷後の理学療法について教えていただきました。X線写真から骨折の部位や程度の見方、術後の侵襲組織など同じ診断名でも異なるリスクがあることなど、画像を読み取ることの大切さを学びました。

循環器疾患の講演では、市立砺波総合病院の碓井 孝治先生に、生検データから見てとれる患者様の状態や、胸部X線写真での無気肺と胸水の鑑別方法など、外からは見えない内部障害の見方を教えていただきました。今まで以上に患者様と向き合うためにも、今回学んだことを積極的に活用していきたいと思います。

生活環境支援の講演では、厚生連高岡病院の寺田 一郎先生に、実際にあった症例を用いて住宅改修についての考え方を教えていただきました。退院後、どのようにすれば在宅生活を継続していけるかを改めて考えるいい機会になりました。

今回の講演では、普段の臨床で関わることの多い4つの分野について基礎や応用を丁寧に教えていただきました。現在の超高齢化社会では、既往歴として複数の疾患を持っていることが多く、様々な分野の勉強を行っておく必要性を改めて感じました。今回の講義内容を忘れず、安全で適切な理学療法を提供できるよう日々精進していきたいと思います。



講義の様子



呼吸循環セミナー 2019 活動報告

金沢医科大学氷見市民病院 守 雅 之

令和元年9月29日(日)、厚生連高岡病院にて内部障害研究会主催の呼吸循環セミナー 2019「オーラルフレイルから身体的フレイルを紐解く」が開催され、県内外より37名の理学療法士が参加した。

済生会富山病院歯科口腔外科部長の井上さやか先生より、歯根膜の重要性や舌骨上下に付着する筋群と嚥下機能の関係性や、咀嚼機能と脳の関係性を海馬の神経変性などでご説明いただき、口腔機能の低下が認知機能や身体機能にどう影響を及ぼすか、ご講義頂いた。非常にわかりやすい口調で会場が和んだ。



講義の様子

続いて富山県立大学の上村一貴先生より、ご自身の最新論文から、フレイル・要介護リスクの新しい指標であるBio-impedance Phase angleより、適切な介入方法の必要性について提示して頂いた。与える介護予防プログラムから意欲や行動へアプローチする「育てる」介護予防として、ヘリスリテラシーをキーワードに太閤山地区で実践しているアクティブラーニング型の介護予防の実際と、その効果検証について提示して頂いた。

口腔機能から身体を紐解く本研修は、急性期から慢性疾患の自己管理、地域活動まで幅広く応用できる内容であった。



神経研究会主催「脳血管疾患に対する 理学療法の進め方 ～歩行・装具を中心に～」

富山西リハビリテーション病院 杉本 美奈

令和元年10月13日(日)に富山西総合病院にて、神経研究会主催の研修会が行われました。「脳血管疾患に対する理学療法の進め方～歩行・装具を中心に～」をテーマに、宝塚リハビリテーション病院の中谷 知生先生、富山県リハビリテーション病院・こども支援センターの福元 裕人先生、富山西総合病院の武田 好史先生、富山西リハビリテーション病院の高木 志仁先生よりご講義いただきました。

脳血管疾患の基礎、片麻痺患者の歩行の特徴、歩行練習時に気を付けるべきポイントなど症例の歩行動画を用いて分かりやすく解説して頂きました。また、実際に長下肢装具を使用した歩行練習の練習方法を教えていただきました。

今回の研修会では、脳血管疾患の疫学、片麻痺患者の歩行について学び、実際に長下肢装具



講義の様子

を使用した歩行練習を体験することができ、とても勉強になりました。脳血管疾患の患者様に対してリハビリテーションを行う際には、今回教えていただいた事を生かしていこうと思います。



運動器研究会スポーツ班主催 研修会報告

運動器研究会スポーツ班 代表 藤樫 和彦

令和元年10月17日(木)、厚生連高岡病院にて運動器研究会スポーツ班主催の研修会を開催いたしました。本研修会では、「理学療法士とアスリートとの関わり」と題しまして、富山県内の病院・スポーツ現場でご活躍されている先生6名にご講演頂きました。ご講演を頂きました先生は、野球・サッカー・陸上・ハンドボールなどのスポーツ現場にも関わっておられ、国体や高校総体での帯同報告や、病院内でのリハビリテーションでのご経験をお話いただき、質疑応答も交えながらの研修会となりました。

傷害により「痛み」を抱えた選手の治療や、「痛みをコントロール」しながらプレーを継続していく現場での関わり、「再受傷を防ぐ」ための試みなどそれぞれの先生に6者6様の工夫を凝らした治療・関わり方をお話し頂きました。なかでも、脳梗塞を発症された方の「走行の獲得」に向けてのお話では、PDCAサイクルを踏まえての治療展開から治療にかける「想い」と、「知恵」を感じることができました。私はもちろんですが、参加者の先生から、「これからのリハビリテーションでの刺激になりました」との声も聞かれ、ご来場頂いた皆様にも得るものがあったかと思います。

運動器研究会スポーツ班では、定期的な会議にて勉強会も開催しておりますので、ご興味のある方は是非ご参加ください。



研修会の様子



～幸せの道を選択する～

株式会社SUDACHI 代表取締役 小川 順大

まずは、このような機会を頂戴し、ご紹介いただいた平井先生に感謝申し上げます。

今現在、私は株式会社SUDACHIの代表として、「介護・予防・美容・健康教育事業」を実施しています。今現在、合わせて9名の信頼できる仲間（家族と考えています）と、幸せな時間を過ごしています。弊社の理念は、3つのSUDACHI、①巣立ち（自立：自分の道を選択できる）、②素の人達（素の自分をさらけ出せる場所の創造）、③酢橘のような爽やかなサービスの提供を基に、「可能性の追求」としています。

理学療法士になって13年。ずっと変わらない想いは、この職業への感謝です。

たかが、20歳を過ぎた若造が、人生の大先輩の方々の挑戦を応援できる。その中で、「こんな風に最後まで挑戦したいな」「正直こんな風にはなりたくないな」といった将来の姿をありありと描くことができる職業はそんなに多くありません。

だからこそ、目の前の患者様にも自分自身にも「可能性を追求」し、多くの人の笑顔を見たい。この想いで、予防事業や教育事業を行ってきました。

一方で、現実社会では多くの人が幸せと実感していないことです。これは患者様・ご家族はもちろん、理学療法士や多くの大人がそうです。ハーバード大学の100年もの研究によると、「人の悩みの85%は身近な人との不満足な人間関係にある」とされています。

技術も良い、人柄も良い人が2人。一方は家族や同僚との関係はうまくいっていない人、一方は両方うまくいっている人。皆さんはどちらの人に理学療法を受けたいと思いますか？

患者様の背景をみても家族の方との関係がうまくいっていない方々が多くはないでしょうか？

弊社では今、社を挙げて世界最先端の心理学ともいわれる「選択理論」（アメリカの精神科医、故ウィリアム・グラッサー博士が提唱）を学んでいます。これは「コントロール理論」と呼ばれるもので、人の行動は外からの刺激により動機づけられるものではなく、本人の内側からの内発的動機を基に、最善の行動を自ら選択しているといった理論。仮に人間関係で何か問題があった場合、相手を動かして（コントロールして）問題解決を図るのではなく、自分から選択し自ら変わろうというもので、『良好な人間関係を築く技術』を身につけることができます。ご興味ある方はいつでもご連絡ください。

理学療法は単純に技術を高めるだけでなく、一個人として、人としての技術を高める必要があると感じています。その先に、初めて多くの「幸せ」があると信じています。

理学療法は生涯学習であると言われますが、人としても生涯学習し、最後まで「幸せの道を選択」し、多くの人の可能性を追求していきます。

インフォメーション

【県士会からのお知らせ】

臨床実習指導者講習会 2月に開催決定！

現在富山県士会では、臨床実習指導者講習会の開催に向けて、鋭意準備中です。

2020年度入学者の臨床実習から、臨床実習指導者を務めるには講習会の受講が必須となりました。年度内の講習会の開催は1回のみですが、次年度は2回開催予定です。県外でも順次講習会が開催されていますが、申し込みが殺到している都道府県が多いそうです。それだけ、臨床実習に対する高い興味・関心があること、また、臨床実習指導が重要であることを強く感じられているのだと思います。

富山県でも多くの受講者が見込まれています。各施設・部門の責任者の方は、自施設での実習受け入れを見据えた計画的な受講をご検討ください。

理学療法士を目指す未来ある学生を、皆様で支えていきましょう！

【教育局からのお知らせ】

● 臨床実習指導者講習会 今後の見通しについて

2019年度：2月開催（決定） 2020年度以降：年間2回開催（予定）

さしあたり、2020年度入学者の臨床実習、すなわち約3年後に向けて、

定員80名×7回開催＝560名の指導者養成を見込んでいます。

なお、その後も本講習会は継続開催予定です。状況に応じて、定員や開催頻度の調整も検討します。

各施設の実習受け入れ状況に応じて、計画的な受講をよろしくお願い致します。

● 新生涯学習制度 情報収集の注意点について

2021年度より新しい生涯学習制度が開始となります。現時点で決定している内容につきましては、協会HPに掲載されていることのみとなります。

それ以外のSNSや関連サイト等で、憶測から不確定な情報も錯綜しているようです。

会員の皆様には、正確な情報を入手していただき、新制度に向けて準備と対応をしていただきますようお願い致します。

<問い合わせ先>

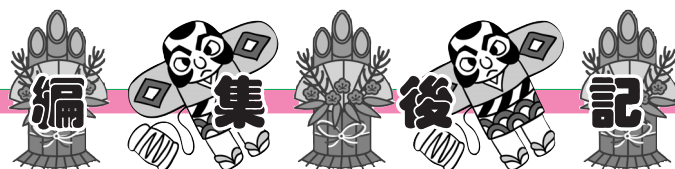
一般社団法人 富山県理学療法士会 教育局 局長

富山県立中央病院 リハビリテーション科 中島 隆興

TEL：076-424-1531 E-mail：rihabiri@pref.toyama.lg.jp

令和元年度 富山県理学療法士会賛助会員名簿

賛助会員名	郵便番号	住 所	T E L	F A X
学校法人 青池学園 富山リハビリテーション医療福祉大学校	〒930-0083	富山市総曲輪4-4-5	076-491-1177	076-491-1178
株式会社 ウィル	〒939-0311	射水市黒河3075	0766-56-7099	0766-56-3395
株式会社 富山県義肢製作所	〒930-0042	富山市泉町1-2-16	076-425-4279	076-425-4587
金城大学 医療健康学部 理学療法学科	〒924-8511	石川県白山市笠間町1200	076-276-4400(代)	076-275-4316
富山医療福祉専門学校	〒936-0023	滑川市柳原149-9	076-476-0001	076-476-0002 (五十音順)



- 今年は筋トレを頑張ります。(Y)
- 原稿の初依頼、頑張ります。(N)
- 今年はドラムを頑張ります。(S)
- 令和も健康第一に日々過ごしていきたいと思います。(S.U)
- 新年あけましておめでとうございます。令和になって初めてのお正月です。気持ちも新たにがんばりたいと思います。(H.S)
- 今年は初めての経験が多く、不安ですが楽しみな1年になりそうです。(F)
- 有意義な原稿が書けるように頑張ります！(K.N)
- 寒い日が続きます。今年もインフルエンザに注意して良い年を迎えられたらと思います。(M.M)
- 新年あけましておめでとうございます。今年は「挑戦」の年にしたいと思います。(U)

2020. 1. 1

一般社団法人 富山県理学療法士会

〒936-0023 富山県滑川市柳原149-9

富山医療福祉専門学校

理学療法学科内

TEL: 076-476-1716

FAX: 076-411-6321

発行人: 酒 井 吉 仁

編 集: 浦 上 孝 徳

印 刷: 志 貴 野 苑

士会URL: <http://toyamapt.umin.ne.jp/>

事務局アドレス: toyamapt-office@umin.ac.jp